

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス たまゆい		
○保護者評価実施期間	令和7年1月6日		令和7年1月15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	38人	(回答者数) 32人
○従業者評価実施期間	令和7年1月6日		令和7年1月11日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9人	(回答者数) 9人
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年2月21日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	発達段階や学年に応じた小集団活動をメインプログラムにしている。	日常的な対人面、社会基盤に沿ったのSSTや自己実現に向けて、具体的な身近なところから取り組んでいる。	子どもの特性を考慮しつつ、より多方面からアプローチできるように研鑽を積んでいく。
2	1に応じて、作業療法士の専門的個別支援プログラムを実施している。	小集団活動だけでは改善しにくい、粗大運動、微細運動、コミュニケーション等の課題において専門的支援を実施している。	専門的にアプローチしている子どもの成長は日々見込まれるが、限られた人員配置の中での専門的支援の実施拡大については課題となる。人員体制や業務分担により、より多くの子どもに専門的支援の機会を作っていく。
3	子どもの現状を保護者と丁寧に共有している。	HUGシステムにより利用日の様子を写真や丁寧な記録でタイムリーに保護者に届けている。困りごとがあれば相談体制を整えている。	今後も保護者との連絡連携を密にし、意向に沿った支援が提供できるようにしていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	施設が手狭であり、個室対応に限界がある。	個室でゆっくり対応したい子どもがいる時の場所の確保が難しい。	限られた空間ではあるが、間仕切り(パーティションやカーテン等)や使う時間帯を分けるなどの工夫をしながら環境設定を行っていく。
2	放課後児童クラブや児童館、地域の子どもの交流する機会が少ない。	児童センターには行っているが、交流といえるまでには至っていない。 平日はそれぞれ下校時間もバラバラで、時間も限られているので、土曜日や長期休み等で考えていく。(今年度は夏休みの児童センターの緑日企画に参加した。)	土曜日や長期休みの児童センターの企画を確認して、利用児と地域の子どもの交流できそうなものについては積極的に参加していく。
3	保護者支援の勉強会や講演会などのプログラム、保護者同士が交流できる機会を設けていない。	保護者の意向調査が出来ておらず、ニーズの把握ができていなかった。今年度、意向調査ができたので反映していきたい。	来年度実施に向け計画を進める。